

大阪 A・P・S コンソーシアム 介護スキルラボ
介護職技能実習生に対する講師派遣 報告書

報告者:社会福祉法人悠人会
特別養護老人ホーム ベルライブ
本田 学

報告日:2019年10月9日(水)

実施期間:2019年8月19日(月)～9月21日(土) 計34日

実施場所:ベトナム ハノイ ホアンロン教育第二センター

1. 目的

- 1) アジア健康構想の一環である、外国人技能実習制度における介護職に関する知識・技能移転、日本・ベトナム間の人材還流のため、ベトナム現地に講師を派遣し介護技術・知識の指導を行う。
- 2) ベトナムでの生活で、文化や習慣、国民性を知る。ベトナムでの生活を体験することで、現在来日している一期生や、来日予定二期生の日本での生活を送る実習生の気持ちを知り、第二フェーズに活用する。

2. クラス紹介

Aクラス 10名

N3取得2名、N4取得8名(9月21日現在)

全員がN4以上を取得しており、また会話能力も高いため、授業の進行は比較的スムーズに行えた。授業内容は概ね理解できている。介護の専門用語や難しい単語についても比較的聞き取れ、説明ができるようになっている。演習場面では、日本に来た時、利用者と接する際に困らないよう大きな声でスムーズに言葉が出るよう今後もベトナムでの指導が必要と考える。

Bクラス 9名

N3取得2名、N4取得7名(9月21日現在)

9月中旬1名N4を取得し、全員N4以上取得となる。

Aクラスに比べ演習に対する意欲は高いが、日本語能力についてはAクラスと比較するとクラスの中でも音読や聴解力に個人差が大きくあり、集団で指導する際に少し学生の対応に困る時あり、日本語が早くなると、内容を理解するのは難しい様子。授業、日常会話はゆっくりと話すことで伝わる。講義内容、単語の理解が難しい場合は、通訳を介して理解できる場面が多い。予習・復習に関しても個人差があり。今は、個々の学生の目標に頑張ることの大切さを伝えモチベーションの維持を図る。

3. カリキュラム内容について

- 1) 総合生活支援技術(テスト) 2(介護職種 技能実習評価実技試験 第1号評価表P3、4、5)
 - ①体位変換(仰臥位から側臥位の介助) ②起居の介助 ③車椅子の移動の介助

体位交換のテストについてはジョリーグッドのVR試用あり。グループを2グループ（VR使用者・不使用者）に分け、試験を行う。評価者は前講師（菅江さん）次講師（本田）にて実施、VR使用者・不使用者の違いは、VR使用者は、利用者の取り巻く環境など、多角的な側面を捉えて観察することができていた。またリスクマネジメントの視点も同時に考え介助ができていた。今後のVR使用については、講師と学生が場面を共有しながら指導が実施できるため、試験をする際にも講師と学生が共有した視点を持ち、実施・評価ができると考える。2期生では学生数も多いため実技試験に2名の講師に係ることが必要であったが、VRを使用することで、1名の講師で複数の学生の確認ができると考える。さらに学生にとっては、実際の日本での介護場面が仮想空間のなかで体験できることや、自己学習の機会の確保が容易になることで、モチベーションの向上が期待できる。



2) 1. 食事に関連したところとからだの基礎知識 2. 食事に関連したところとからだのしくみ
3. 機能低下・障害が及ぼす食事行動への影響

(介護導入講習テキスト P37～P39・初任者研修テキスト P174～P180、実技試験評価表P6、7)

自分で体験し、感じることを目的に、試食などを含めて、講義を実施した。

食べやすいもの、食べにくいものの試食体験、前講義(食事に関して)の振り返りと食事前・食事中、食事後などで介助時に注意する視点の確認を個人ワーク、グループワークを実施し、演習に活かすよう指導する。AクラスとBクラスでは理解力に差があり、Bクラスに関しては座学での理解に少し時間を要した。



3) ころとからだのしくみと生活支援技術(食事)

1. 食事介助
2. 嚥下状態の確認
3. 食事形態の理解

A. Bクラス共に座学で学んだ各場面の注意点をもとに、場面を想定し実践する。介護実践に関してはA. Bクラス共に慣れており、3人1グループを作り、学生同士で注意ができる環境を作り、実施する。声掛けには私と通訳ハー先生が中に入り、指導を行う。

ベッド上での介助、いすでの介助を実施する。



4) 1. 入浴・清潔保持に関連したころとからだの基礎知識

2. 入浴・清潔に関連したころとからだのしくみ
3. 機能低下・障害が及ぼす入浴・清潔行動への影響

(介護導入講習テキスト P52～P59・初任者研修テキスト P200～P229、実技試験評価表P8、9、介護職員初任者研修補助教材(DVD))

食事介助と同様にまず前回講義の振り返りと入浴前・入浴中などで介助時に注意する視点の確認を個人ワーク、グループワークを実施し、演習に活かすよう指導する。

前回講義の振り返りの際に、体の部位・入浴の意義など記述式の確認テストを行った。(ひらがなも可。答えは漢字で指導)ほぼ全員が全問正解できており、言葉の理解はできている。

5) ころとからだのしくみと生活支援技術(入浴・清潔保持)

1. 手浴介助
2. 足浴介助
3. 入浴介助
4. 身体清拭

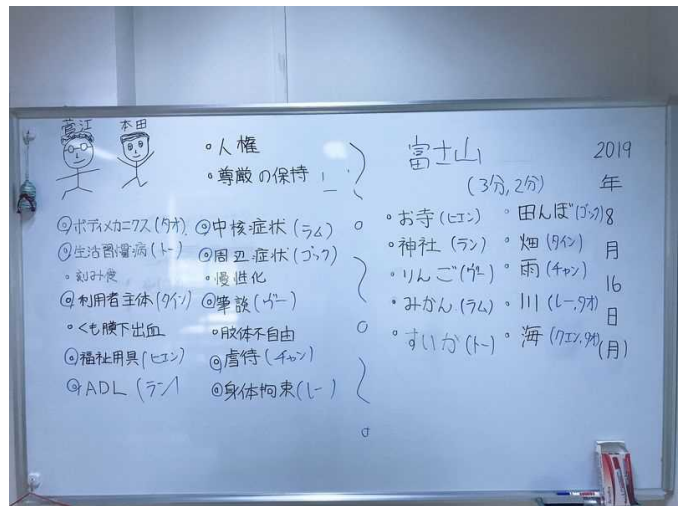
食事介助と同様A. Bクラス共に座学で学んだ各場面の注意点をもとに、場面を想定し実践する。入浴についてはベトナムと日本で入浴に関する文化が違う為、学生達は入浴中の注意点をイメージすることが難しい様子であった(手浴、足浴、清拭は可)。日本へ来てから各施設使用物品なども違う為、今後、実際の各現場で細かい指導が必要と考える。



6) 総合生活支援技術(テスト)

① 食事の介助 ② 手浴・足浴の介助

テストでは演習でしっかりと自分たちで注意点を考えてもらい、指導をしていたため、スムーズに実施できた。声掛けについては大きな声で実施できていたと考える。今後もしっかりと技術だけでなく、声掛けや気づき等を大事に指導していく必要があると考える。また、その週より日本語のみ使用可能な授業とした。初めはまだまだベトナム語を使用することがあったが、しだいに日本語で話し、注意し合える環境が作れたと考える。



4. ベトナムでの生活について

講師として行くため、前講師陣と同じく、まず自己の体調管理をしっかりとすることに努めた。その後、坪忠典氏のベトナム講座を受け、ベトナム語習得が楽しくなり、少しでも学生の気持ちに近づけるよう、学生や先生方に生活で必要になる言葉(挨拶、食事を頼む、買い物、タクシー・バイクタクシーの乗り方、よく使う言葉など)を文字で書いてもらい、読むことをした。休日はなるべく多くの場所へ散歩に行き、ベトナム文化に触れることをした。私は運よく、ハノイ、ダナン、ホイアン、トゥエン・クワンなど観光地にも田舎にも行くことが出来、その際に知り合った方々の優しさに感銘を受けることが多くあった。そこで働く方の仕事に対する気持ちの持ち方など、日本だけの視野ではなく、ベトナム人の仕事に対する、まじめさや熱意に触れることができた。また日本とベトナム

の今後(人口構図や経済成長など)についても、ベトナムで生活されている日本人学校の先生方達とも話をすることが出来た。



5. まとめ

今回は新しい事業(VR事業)にも参加させて頂き、実際の学生の試用に立ち合わせていただき、大変勉強になった。今回のベトナム渡越に関しては学生との信頼関係の構築や、介護を実践するときの根拠、なぜ今の介助に、この声かけや観察が必要なのか、などを大切に指導を行った。学生達は必死に勉強に取り組んでいるがモチベーションが下がって、授業に身が入らない場面もあり、そこは厳しく指導し、APSでの目標にブレがないように指導が必要であった。

6. 最後に

派遣期間を無事に務めることができたのは、学校ではアインさん・ハインさん、通訳のハー先生、日本では愛仁会長尾部長を始めA・P・Sメンバーの皆様、現地でダナンへの手続きも含めベトナムでの生活で非常にお世話になった坪忠典氏、派遣期間中、自部署でがんばってくれた職員の協力あつての事と感謝しております。田中理事長、奥尾部長、大谷副部長、酒井施設長、並木援護長、谷口課長、貴重な機会を与えていただいたことに感謝すると共に、A・P・Sコンソーシアムに関わる全ての方々に心より厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。